

バイオベンチャー

一つヒットすれば一十億以上の売上高が出ることもされる新薬や再生医療技術の開発を目指し、国内でバイオ

ベンチャーが相次いで誕生している。医療産業都市構想を掲げる神戸市が研究施設などを整備するポトアイランド二期(中央区)にも着々と立地。世界的な医療企業の誕生への期待が高まる。

(松井 元)

「神戸から飛躍」期待

がんの遺伝子治療に取組むエムスサイエンスため退社して起業。ポトアイ2期に本社を構え(神戸市中央区)。三田 四郎会長(左)は参天製薬た。の創業者の孫だが、自分



再生医療の研究に取り組むアルプラストの研究室。ベンチャーから大手へ飛躍を目指す神戸市中央区港島南町5

がんを攻撃する特殊なへ

ポトアイ2期に本社をのターゲットだ。同じく、付けた物質が果たして薬品として使えるかーの最終判断に時間がかかること。短期間で判断する方法を考案し、研究者を支援する。

ポトアイに続々立地

医薬品 長期の研究、開発続く

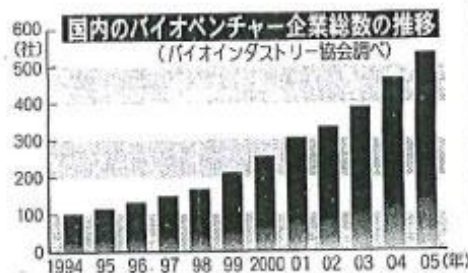
ら、米國で臨床試験を開始。三田会長は「米政府の認可を得れば、製薬会社と数億円で契約できるとする。」

ら、血糖値を下げるインサリンを分泌する膵臓β(ベータ)細胞をつくる。移植する方法の確立を目指す。

研究者の悩みは、目を着目。世界トップ級の二

業界団体のバイオインダストリー協会(東京)によると、国内のバイオベンチャーは二〇〇五年末で五百三十一社。兵庫

は、がんなどの誘因となるタンパク質キナーゼにある」と、三村部長は話している。



百種以上を作ること成功した。創業企業が本当にうとすする物質が本当にがんなどに効くのかーを確かめるいわば試薬として販売する。

「行政の支援もあり、神戸はバイオベンチャーが順調に増えている」と同協会の三村邦雄部長(左)は話す。

国内では二〇〇年前後から急速に増えたが、医薬品の認可にこぎつた会社はまだない。ただ「数年後には認可を得る企業が出てくる」と、三村部長はみる。

再生医療の研究に取り組むアルプラストの研究室。ベンチャーから大手へ飛躍を目指す神戸市中央区港島南町5

生活習慣病も再生医療

けいぞく

最前線